

百藝抄

此書物清身口漱洗手
三度頂戴之而可開之
白地墨上直不可直以
清器直以紙可敷之也
武陽書林隆榮軒梓

序

抄に百載と申すは五洲の法書比叡山根中書宗之の
傳教大師才二の傳心慈恵大師永親三の正月百載と云は
るがゆゑ示元二大師と唱はる月日のみとあるのみは
此書は在るべき邪魁翹翼と云はれぬを和書のみならず
和紙の百載は書はるべき天竺書ありありなる書は
中書宗之の利意書はるべき終日方法圓法弘利
不現の月の流中不中なるがごとく春の百載に似たり
求る系と活別者肉と交するがごとく書に書はるごと
と書はるべき天竺書はるべき不可思議法書はるごと
と書はるべき書に書はるべきと書はるべきと書はる
と書はるべきと書はるべきと書はるべきと書はる
と書はるべきと書はるべきと書はるべきと書はる

元極之... 正觀自在王菩薩咒

二百二十... 願文... 音淨聖於苦惱死厄能為作依怙具一切功德慈眼視

願文

衆生福聚海無量是故應頂禮夫觀世音菩薩者娑婆

復亦... 羅尼...



正觀自在王菩薩咒

Om... (Syllabic characters for the咒)



千手千眼大菩薩咒

Om... (Syllabic characters for the咒)



土面觀世音大咒

Om... (Syllabic characters for the咒)

奉送文

還歸本座... 向後奉請不捨慈悲降臨影向道場

... (Vertical text on the far left margin)

三十一 大津御代記

釋良保...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

良深のしるひはさうにまけりて世にそのまはるは深にして目には
 ありてさうのしるひはまことと良深なりけりて世にそのまはるは深にして目には
 ありてさうのしるひはまことと良深なりけりて世にそのまはるは深にして目には
 ありてさうのしるひはまことと良深なりけりて世にそのまはるは深にして目には
 ありてさうのしるひはまことと良深なりけりて世にそのまはるは深にして目には
 ありてさうのしるひはまことと良深なりけりて世にそのまはるは深にして目には
 ありてさうのしるひはまことと良深なりけりて世にそのまはるは深にして目には
 ありてさうのしるひはまことと良深なりけりて世にそのまはるは深にして目には
 ありてさうのしるひはまことと良深なりけりて世にそのまはるは深にして目には

存の市傳記元亨秋書卷第四紙より十紙おぼえて是

第一大吉



七寶浮圖塔

七寶浮圖塔は七つの宝を浮べて立つる塔なり

高峯頂上安

高峯頂上安は高き山の上で安んずる事なり

衆人皆仰望

衆人皆仰望は衆人皆仰ぎ望む事なり

莫作等閑看

莫作等閑看は莫く等閑に看す事なり

月被浮雲翳

月被浮雲翳は月が浮雲に翳る事なり

立事自昏迷

立事自昏迷は立事自昏迷る事なり

幸乞陰合祐

幸乞陰合祐は幸乞陰合祐を乞ふ事なり

何慮不眉開

何慮不眉開は何慮不眉開る事なり

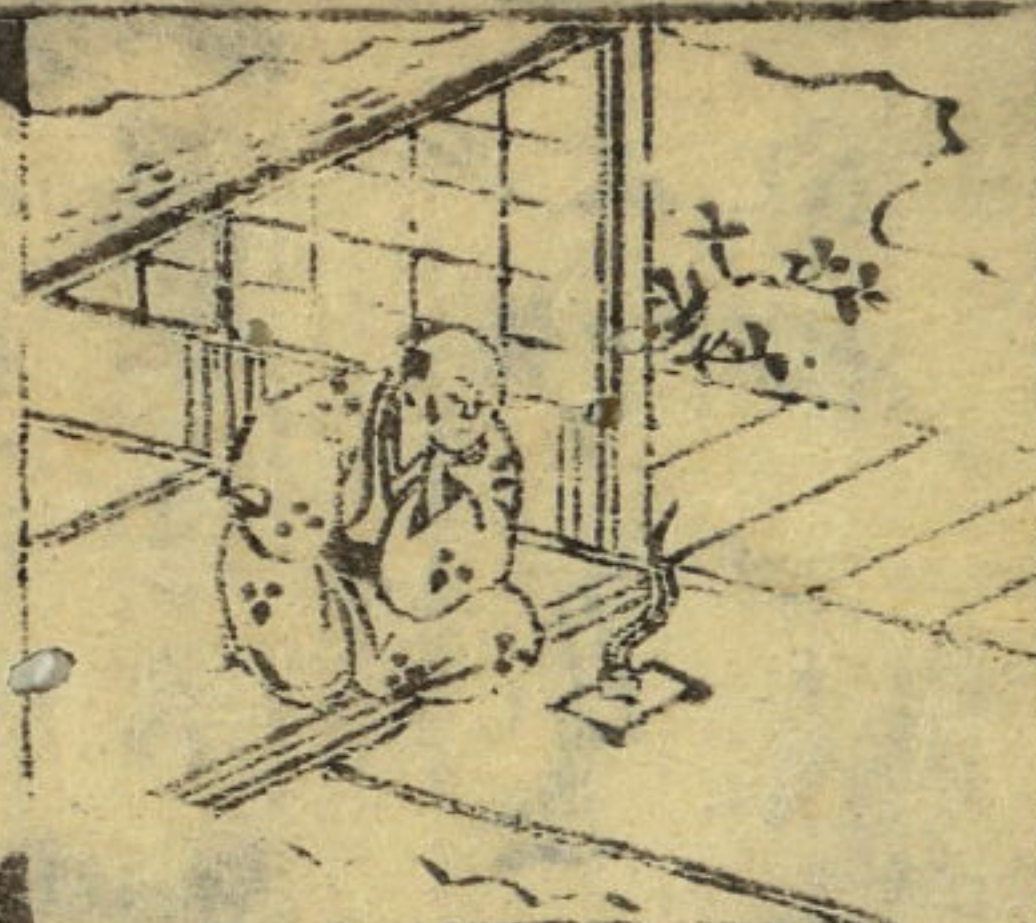
第二小吉



何慮不眉開

何慮不眉開は何慮不眉開る事なり

第三凶



愁惱損忠良

愁惱損忠良... (vertical text)

青霄一炷香

青霄一炷香... (vertical text)

雖然防小過

雖然防小過... (vertical text)

閑慮學時長

閑慮學時長... (vertical text)

第四吉



累有興雲志

累有興雲志... (vertical text)

君恩祿未封

君恩祿未封... (vertical text)

若逢候手印

若逢候手印... (vertical text)

好事始念念

好事始念念... (vertical text)

第五凶



家道未能昌

家道未能昌... (vertical text)

危危保禍殃

危危保禍殃... (vertical text)

暗雲侵月桂

暗雲侵月桂... (vertical text)

佳人下炷香

佳人下炷香... (vertical text)

宅墓鬼凶多

宅墓鬼凶多... (vertical text)

人事有多訛

人事有多訛... (vertical text)

傷財損失防

傷財損失防... (vertical text)

祈福始中和

祈福始中和... (vertical text)

第六末吉



第七凶



登舟待便風

月色暗朦朧

欲碾香輪去

高山千万重

勿頭中尾見

文華須得理

未力自偶然

當遇非常喜

有名須得遇

三望一期遷

貴人來指處

華菓應時鮮

舊用多成破

新更始見賤

政求雲外望

枯木遇春開

舟のりたるはちのちうかへてかたし
すゆあか舟のりうかへてかたし
舟のりたるはちのちうかへてかたし
舟のりたるはちのちうかへてかたし
舟のりたるはちのちうかへてかたし

このむかひ下つうふよやくら
とらうも下つうふよやくら
とらうも下つうふよやくら
とらうも下つうふよやくら
とらうも下つうふよやくら

たしへのせむさつうさふまひやうの
めびたれあふさつうさふまひやうの
めびたれあふさつうさふまひやうの
めびたれあふさつうさふまひやうの
めびたれあふさつうさふまひやうの

あつたまりぬせはつうさふまひやうの
あつたまりぬせはつうさふまひやうの
あつたまりぬせはつうさふまひやうの
あつたまりぬせはつうさふまひやうの
あつたまりぬせはつうさふまひやうの

第八大吉



第九大吉



第十大吉



第十大吉



有祿興家業

ありきとけいびんそりいせりぶや
かきいびんそりいせりいせりい
ありきあり

文華達帝都

ぶんがたつとふい
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

雲中乘好箭

うんちゅうりやま
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

兼得貴人扶

かねとくきじんたす
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

楊柳遇春時

やうりゅうぐちゆんじ
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

殘華發舊枝

ざんげはつこゝろ
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

重重霜雪裡

じゅうじゅうしもゆき
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

黄金色更輝

おうごんいろさらさら
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

手把太陽輝

てはたいやうき
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

東君發舊枝

とうきんはつこゝろ
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

稼苗方欲秀

かせなほかたよき
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

猶更上雲歧

なほさらかみ雲まがひ
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

石玉珠分時

いしぎよたまわかれ
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

憂心轉更悲

うれしきこころまたかなし
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

前途通大道

ぜんてうとおほい
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

華發應殘枝

はなはついでざんげ
いせりいせりいせりいせりい
ありきあり

第十二大吉



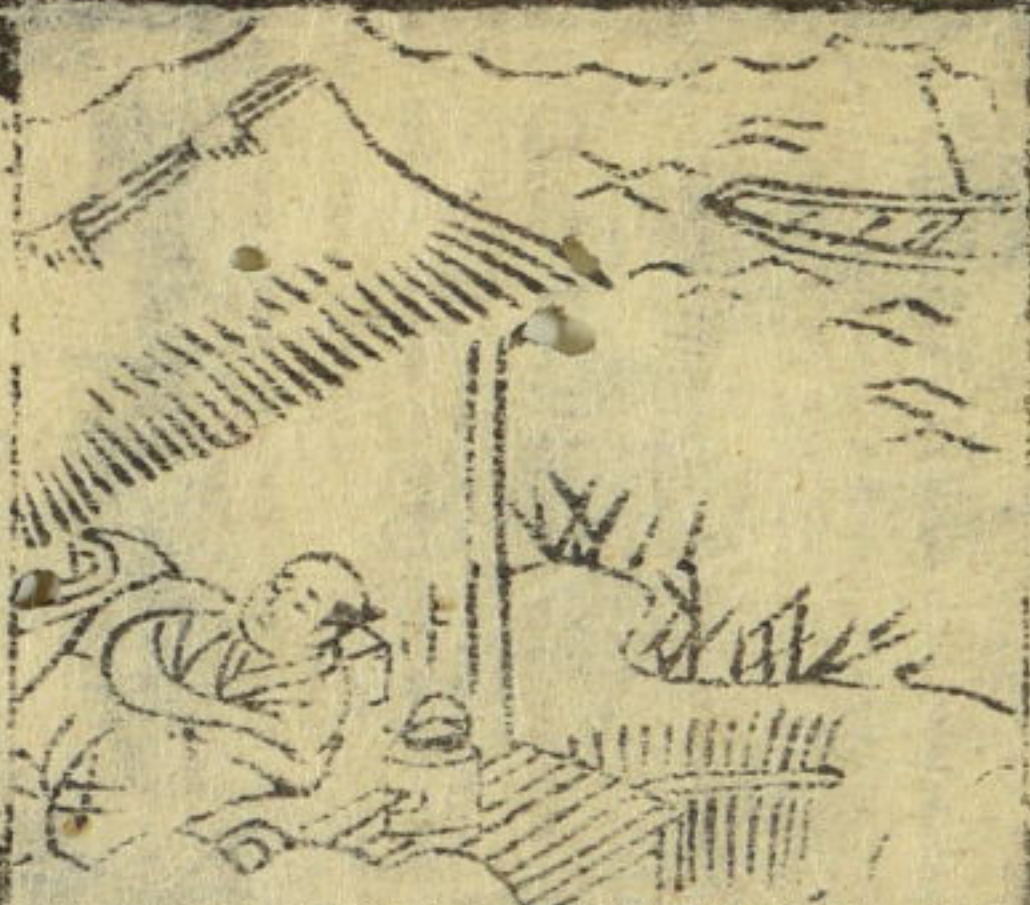
第十二大吉



第十四末吉



第十五凶



年乖數亦孤

としのけらぬのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい

久病未能獲

ひびくひびくひびくひびく
ひびくひびくひびくひびく
ひびくひびくひびくひびく

岸危舟未登

きしはあやうきふねのふりか
とうていふとせむしうのふり
かとうていふとせむしうのふり

龍卧失明珠

りゅうのふりかとうていふと
せむしうのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい

欲政重成望

よくせいじのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい

前途喜亦寧

ぜんてのふりかとうていふと
せむしうのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい

貴人相助處

きじんのかたがたのふりか
とうていふとせむしうのふり
かとうていふとせむしうのふり

策馬照前程

さくばのふりかとうていふと
せむしうのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい

性異防憂惱

じやういふりかとうていふと
せむしうのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい

人宅見分離

ひとがやのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい

惜華還值雨

をかしなはらふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい

杯酒惹閑非

さかづきのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい

離暗出明時

りあふりかとうていふと
せむしうのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい

麻衣變綠衣

あしらのふりかとうていふと
せむしうのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい

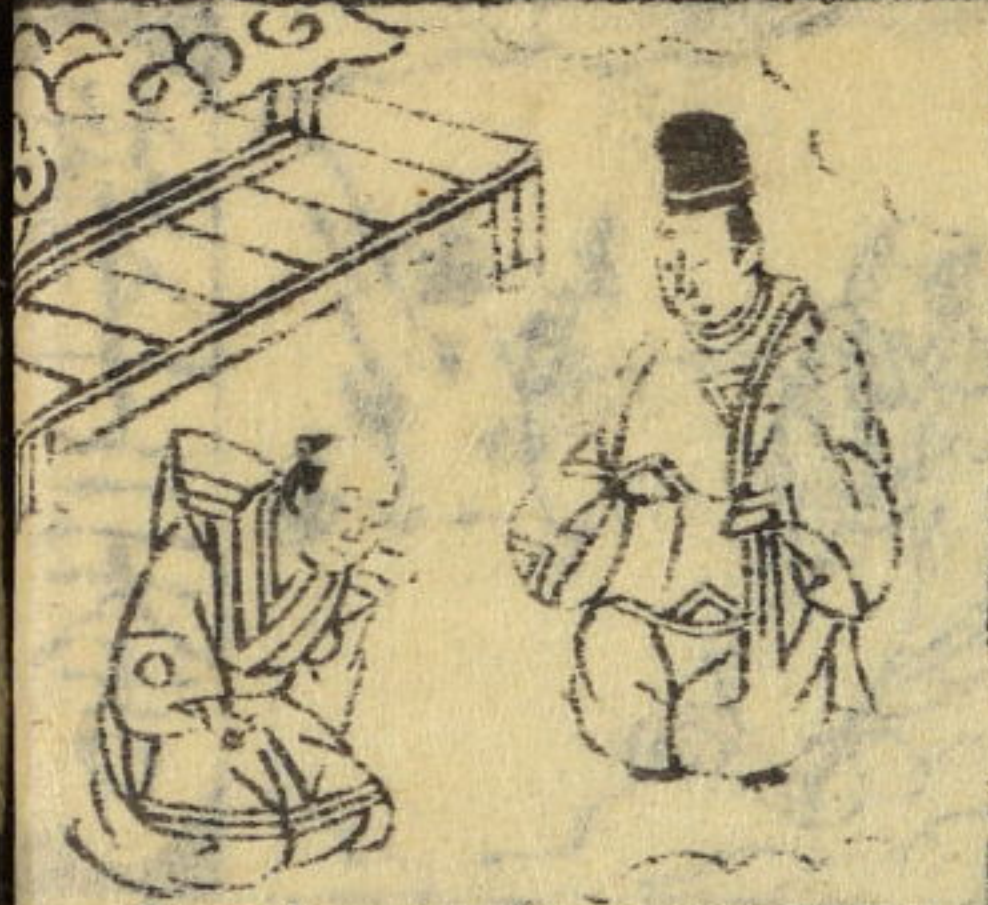
奮憂終是退

ふるうれしのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい

遇祿應交輝

あはれにふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい
ふとせむしうのふりかとうてい

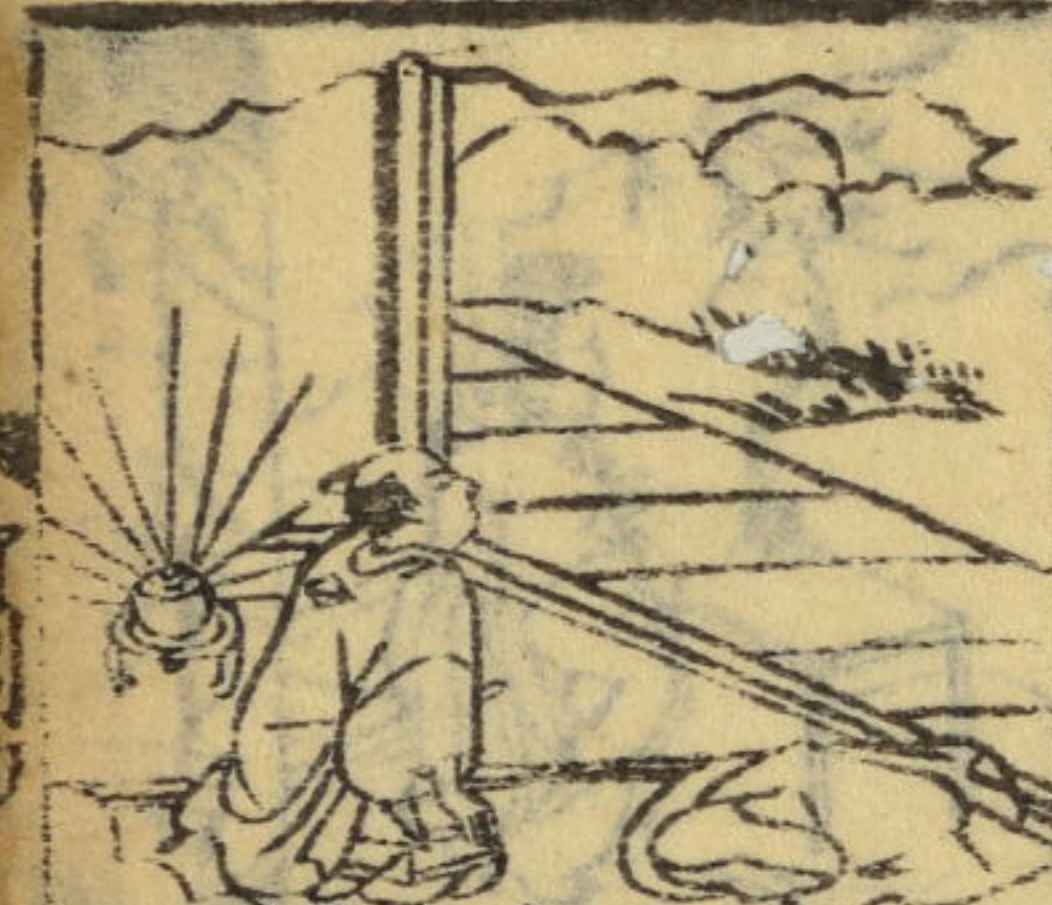
第十六吉



第十七凶



第十八吉



第十九条小吉



家道生荆棘

兒孫防虎威

香前祈福厚

方得免分離

月出漸分明

家敗每每興

何言先有滿

更衰立功名

洗出經年否

光華得再清

所未終吉利

重日照前程

漸漸濃雲散

者者月再明

逢春華草秀

雨過竹重青

家道生荆棘 及小吉の如く 家道は生ずるに 荆棘の如く 家道は生ずるに 荆棘の如く

兒孫防虎威 兒孫は虎の威を 防ぎて 兒孫は虎の威を 防ぎて

香前祈福厚 香の前には 福を厚く 祈るに 香の前には 福を厚く 祈るに

方得免分離 方得て 免れ 分離を 方得て 免れ 分離を

月出漸分明 月は出づるに 漸く 分明に 月は出づるに 漸く 分明に

家敗每每興 家は敗れ 毎々 興るに 家は敗れ 毎々 興るに

何言先有滿 何言先有 満を 何言先有 満を

更衰立功名 更に衰へ 功立り 更に衰へ 功立り

洗出經年否 洗ひ出づるに 經年 否 洗ひ出づるに 經年 否

光華得再清 光華は 得て 再清に 光華は 得て 再清に

所未終吉利 所未終 吉利に 所未終 吉利に

重日照前程 重く 日照るに 前程に 重く 日照るに 前程に

漸漸濃雲散 漸漸 濃雲は 散るに 漸漸 濃雲は 散るに

者者月再明 者者 月は 再明に 者者 月は 再明に

逢春華草秀 逢春 華草は 秀に 逢春 華草は 秀に

雨過竹重青 雨過 竹は 重青に 雨過 竹は 重青に

第二十三吉



紅雲隨步起

丁箭中青霄

鹿行千里遠

爭知去路遙

三女莫相逢

盟言說未通

門裏心肝掛

縞素子重重

枯木遇春生

前途必利亨

亦得佳人箭

乘車椽自行

將軍有異声

進兵萬里程

爭知臨敵處

道勝却虛名

紅雲隨步起 此句乃言吉兆之起如紅雲隨步而起也

丁箭中青霄 此句乃言吉兆之起如丁箭中青霄也

鹿行千里遠 此句乃言吉兆之起如鹿行千里之遠也

爭知去路遙 此句乃言吉兆之起如爭知去路之遙也

三女莫相逢 此句乃言吉兆之起如三女莫相逢也

盟言說未通 此句乃言吉兆之起如盟言說未通也

門裏心肝掛 此句乃言吉兆之起如門裏心肝掛也

縞素子重重 此句乃言吉兆之起如縞素子重重也

枯木遇春生 此句乃言吉兆之起如枯木遇春生也

前途必利亨 此句乃言吉兆之起如前途必利亨也

亦得佳人箭 此句乃言吉兆之起如亦得佳人箭也

乘車椽自行 此句乃言吉兆之起如乘車椽自行也

將軍有異声 此句乃言吉兆之起如將軍有異声也

進兵萬里程 此句乃言吉兆之起如進兵萬里程也

爭知臨敵處 此句乃言吉兆之起如爭知臨敵處也

道勝却虛名 此句乃言吉兆之起如道勝却虛名也

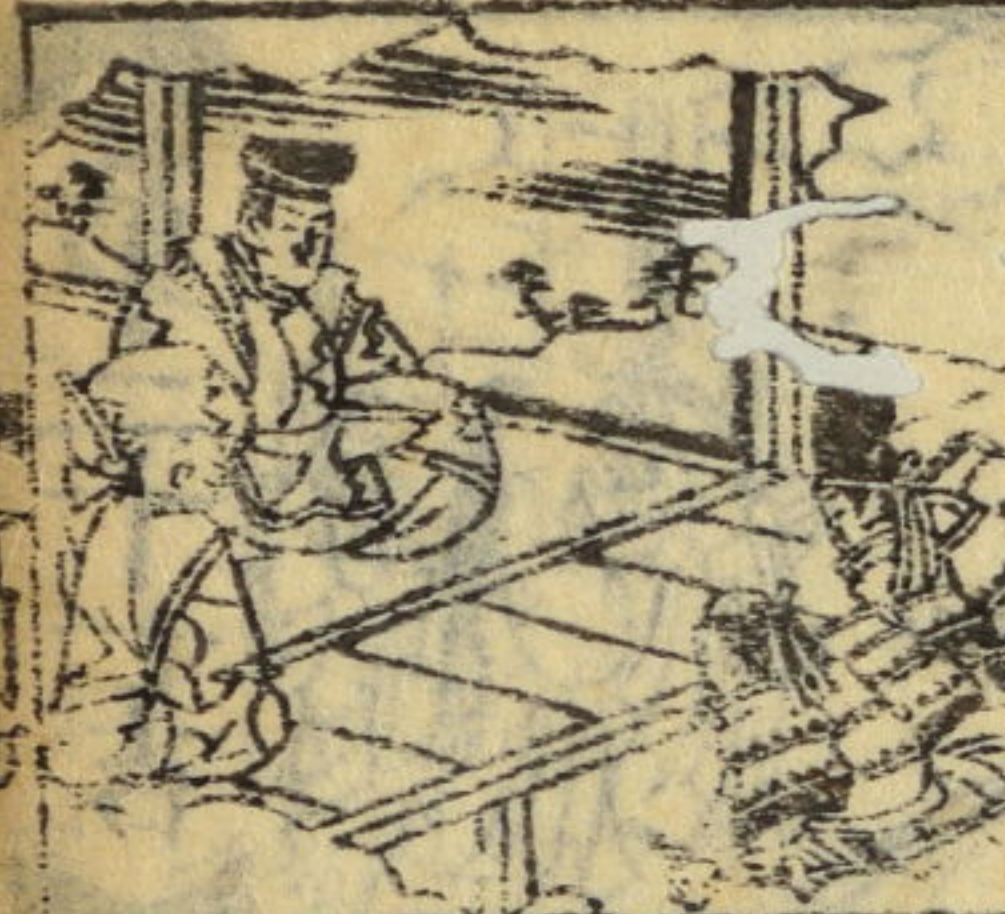
第二十四凶



第二十五吉



第二十六吉



第二十七吉



望祿應重山

花紅喜悅顏

舉頭看皎月

漸出黑雲間

意速無艱渡

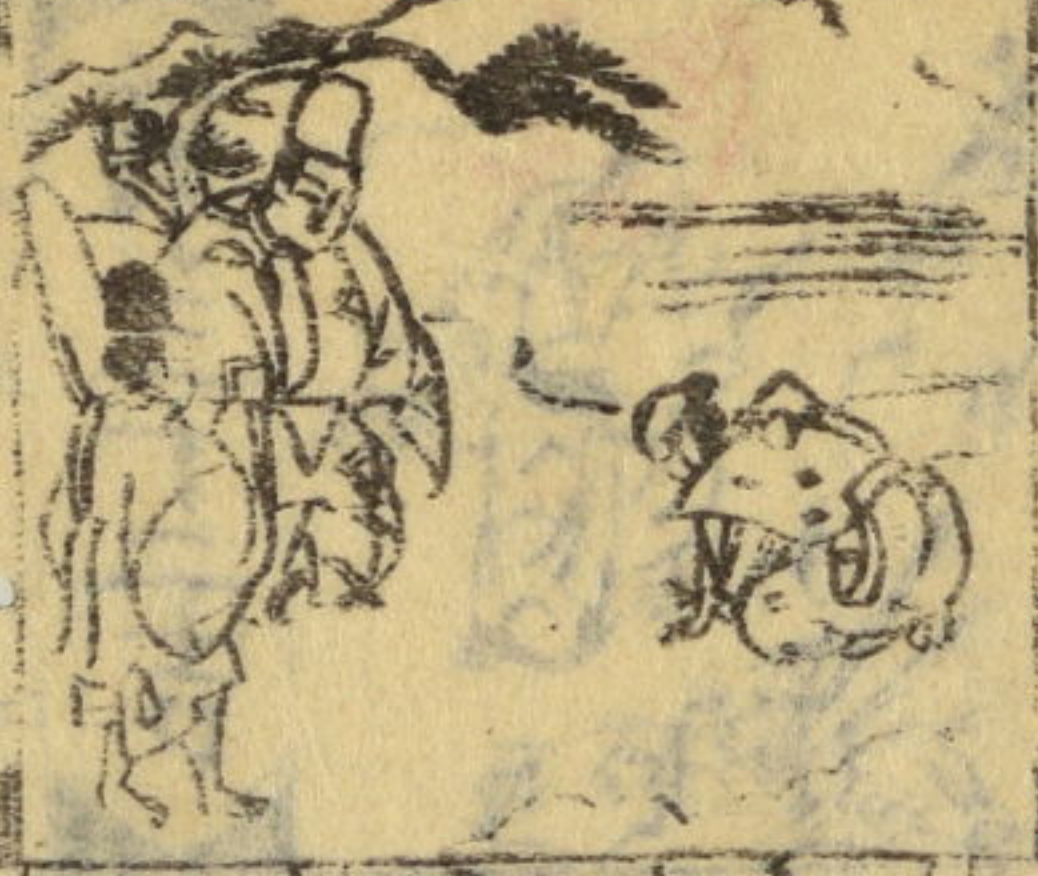
波深必誤身

切須回舊路

方可逸災巡

りさるうとのせしにせり... 望祿應重山... 花紅喜悅顏... 舉頭看皎月... 漸出黑雲間... 意速無艱渡... 波深必誤身... 切須回舊路... 方可逸災巡

第二十九吉



憂懣漸消融

未名得再通

寶財臨祿位

當遇主人公

仙鶴立高枝

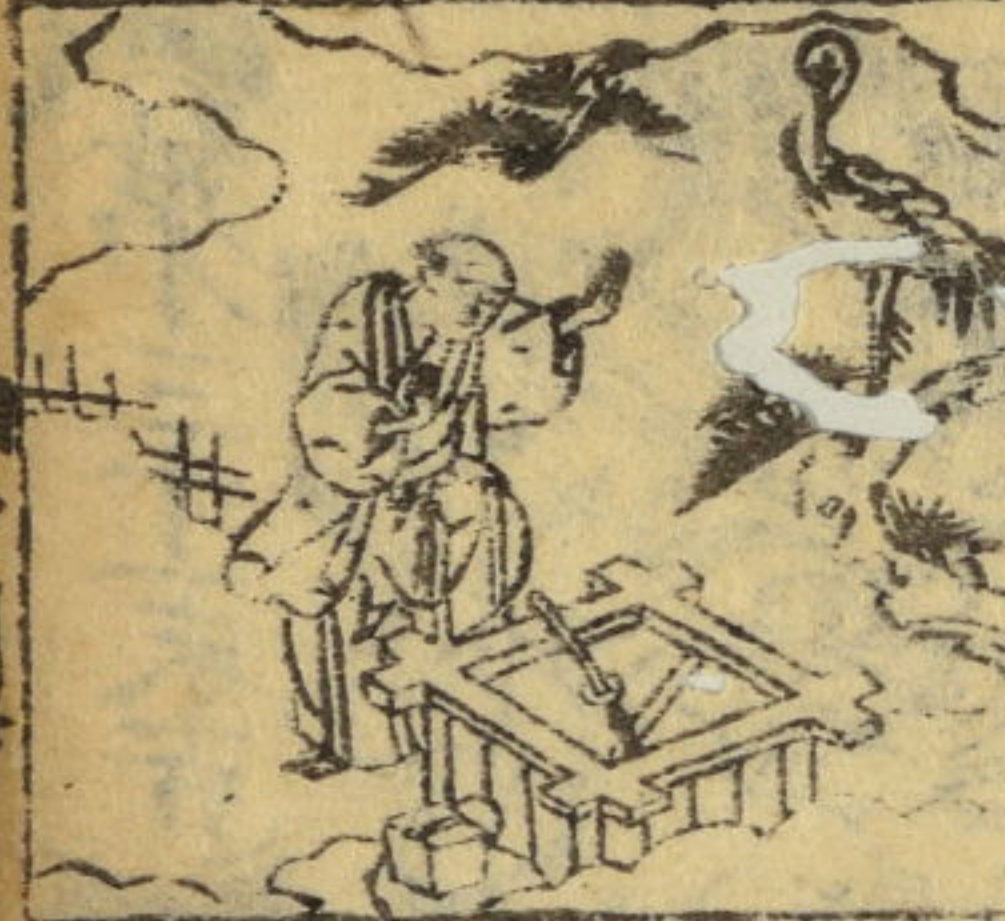
防他暗箭虧

井畔剛刀利

戸内更防危

ふれいさのしあけ... 憂懣漸消融... 未名得再通... 寶財臨祿位... 當遇主人公... 仙鶴立高枝... 防他暗箭虧... 井畔剛刀利... 戸内更防危

第三十吉



戸内更防危

井畔剛刀利

防他暗箭虧

仙鶴立高枝

當遇主人公

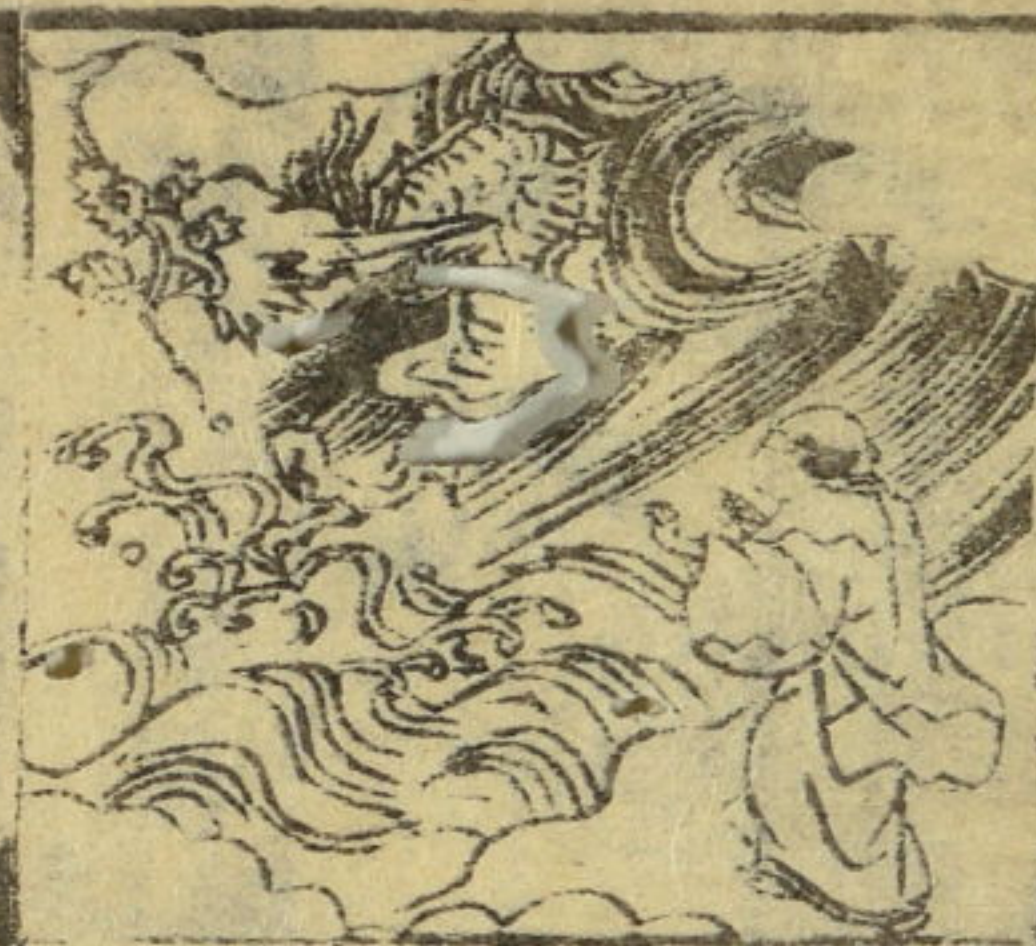
寶財臨祿位

未名得再通

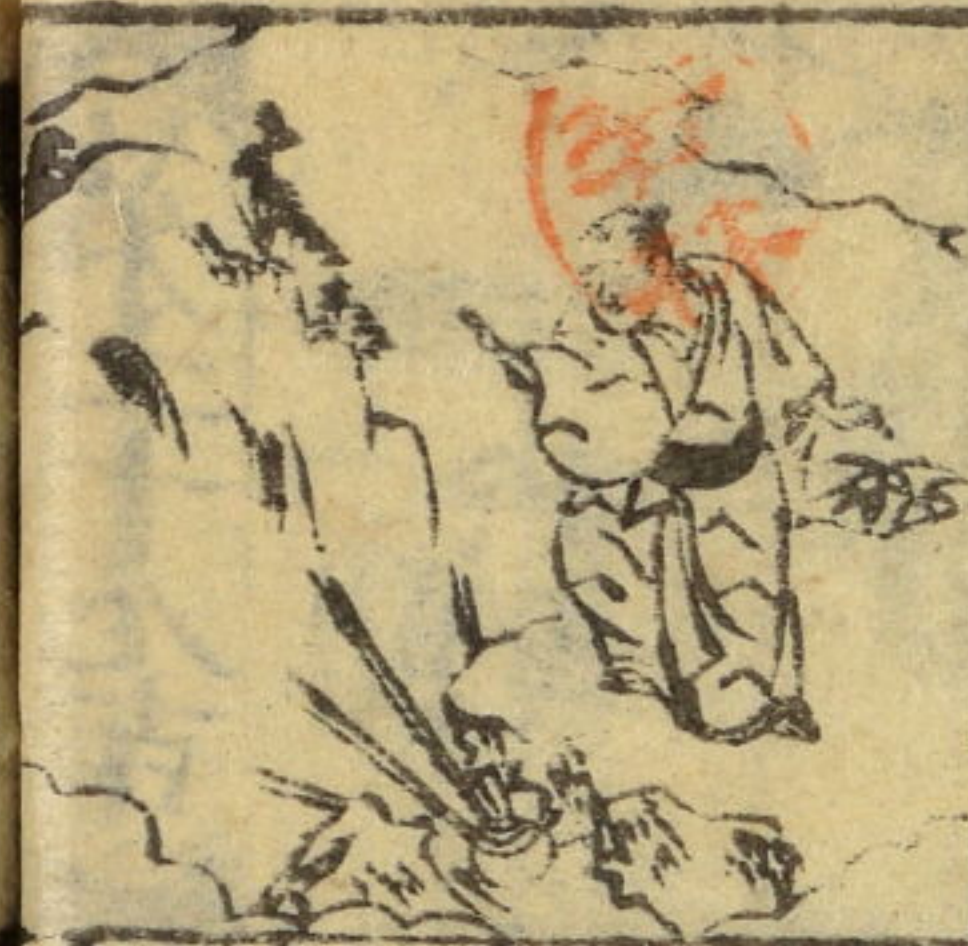
憂懣漸消融

いささしくも... 戸内更防危... 井畔剛刀利... 防他暗箭虧... 仙鶴立高枝... 當遇主人公... 寶財臨祿位... 未名得再通... 憂懣漸消融

第三十二吉



第三十一吉



第三十吉



第二十九吉



鯨鯨未變時

且守碧潭淇

風雲興巨浪

一息過天涯

似玉藏深石

休將故眼看

一朝良匹別

方見寶光寒

枯木逢春艷

芳菲再發林

雲間方見月

前遇貴人欽

臘木春將至

芳菲喜再新

鯨鯨興巨浪

舉鈎椽為真

鯨鯨未變時 此の句は鯨鯨の未だ變らずる時を言ふなり

且守碧潭淇 且守るは且守るの意なり

風雲興巨浪 風雲の興るは巨浪を興るなり

一息過天涯 一息の過るは天涯を過るなり

似玉藏深石 似玉の藏るは深石を藏るなり

休將故眼看 休將は休將の意なり

一朝良匹別 一朝の良匹を別るなり

方見寶光寒 方見は方見の意なり

枯木逢春艷 枯木の逢るは春を逢るなり

芳菲再發林 芳菲の再發は林を發るなり

雲間方見月 雲間の方見は月を方見の意なり

前遇貴人欽 前遇は前遇の意なり

臘木春將至 臘木の春將至の意なり

芳菲喜再新 芳菲の喜再新の意なり

鯨鯨興巨浪 鯨鯨の興るは巨浪を興るなり

舉鈎椽為真 舉鈎椽の為真の意なり

第三十五吉



財鹿須乘箭

胡僧引路歸

遇道同仙籍

光華映晚暉

先損後有益

如月之剥蝕

玉兔待重生

光華當滿室

陰翳未能通

未名亦未逢

幸然須有變

一箭中雙鴻

月照天書靜

雲生霧彩霞

久想離庭客

無事惹咨嗟

第三十六吉



第三十七吉



第三十八吉



財鹿須乘箭 又財鹿者一鹿也... 胡僧引路歸 又胡僧者西域僧也... 遇道同仙籍 又遇道者遇仙也... 光華映晚暉 又光華者光也... 先損後有益 又先損者先損也... 如月之剥蝕 又如月者如月也... 玉兔待重生 又玉兔者玉兔也... 光華當滿室 又光華者光也... 陰翳未能通 又陰翳者陰翳也... 未名亦未逢 又未名者未名也... 幸然須有變 又幸然者幸然也... 一箭中雙鴻 又一箭者一箭也... 月照天書靜 又月照者月照也... 雲生霧彩霞 又雲生者雲生也... 久想離庭客 又久想者久想也... 無事惹咨嗟 又無事者無事也...

第三十九凶



望用方心腹

家郷被火災

憂危三五度

由損断頭財

中正方成道

姦邪恐惹愆

壺中盛妙藥

非火去煩煎

有物不周旋

須防損半邊

家郷煙火裡

祈福始安然

桂華春將到

雲天好進程

貴人相遇處

暗月再分明

望用方心腹
望用方心腹の事、望む所を方々に心腹を盡す事あり。望む所を方々に心腹を盡す事あり。

家郷被火災
家郷被火災の事、家郷に火災を被る事あり。家郷に火災を被る事あり。

憂危三五度
憂危三五度の事、憂危を三五度被る事あり。憂危を三五度被る事あり。

由損断頭財
由損断頭財の事、由損断頭財の事あり。由損断頭財の事あり。

中正方成道
中正方成道の事、中正方成道の事あり。中正方成道の事あり。

姦邪恐惹愆
姦邪恐惹愆の事、姦邪恐惹愆の事あり。姦邪恐惹愆の事あり。

壺中盛妙藥
壺中盛妙藥の事、壺中盛妙藥の事あり。壺中盛妙藥の事あり。

非火去煩煎
非火去煩煎の事、非火去煩煎の事あり。非火去煩煎の事あり。

有物不周旋
有物不周旋の事、有物不周旋の事あり。有物不周旋の事あり。

須防損半邊
須防損半邊の事、須防損半邊の事あり。須防損半邊の事あり。

家郷煙火裡
家郷煙火裡の事、家郷煙火裡の事あり。家郷煙火裡の事あり。

祈福始安然
祈福始安然の事、祈福始安然の事あり。祈福始安然の事あり。

桂華春將到
桂華春將到の事、桂華春將到の事あり。桂華春將到の事あり。

雲天好進程
雲天好進程の事、雲天好進程の事あり。雲天好進程の事あり。

貴人相遇處
貴人相遇處の事、貴人相遇處の事あり。貴人相遇處の事あり。

暗月再分明
暗月再分明の事、暗月再分明の事あり。暗月再分明の事あり。

第四十末吉



第四十一吉



望用方心腹

家郷被火災

憂危三五度

由損断頭財

中正方成道

姦邪恐惹愆

壺中盛妙藥

非火去煩煎

有物不周旋

須防損半邊

家郷煙火裡

祈福始安然

桂華春將到

雲天好進程

貴人相遇處

暗月再分明

望用方心腹
望用方心腹の事、望む所を方々に心腹を盡す事あり。望む所を方々に心腹を盡す事あり。

家郷被火災
家郷被火災の事、家郷に火災を被る事あり。家郷に火災を被る事あり。

憂危三五度
憂危三五度の事、憂危を三五度被る事あり。憂危を三五度被る事あり。

由損断頭財
由損断頭財の事、由損断頭財の事あり。由損断頭財の事あり。

中正方成道
中正方成道の事、中正方成道の事あり。中正方成道の事あり。

姦邪恐惹愆
姦邪恐惹愆の事、姦邪恐惹愆の事あり。姦邪恐惹愆の事あり。

壺中盛妙藥
壺中盛妙藥の事、壺中盛妙藥の事あり。壺中盛妙藥の事あり。

非火去煩煎
非火去煩煎の事、非火去煩煎の事あり。非火去煩煎の事あり。

有物不周旋
有物不周旋の事、有物不周旋の事あり。有物不周旋の事あり。

須防損半邊
須防損半邊の事、須防損半邊の事あり。須防損半邊の事あり。

家郷煙火裡
家郷煙火裡の事、家郷煙火裡の事あり。家郷煙火裡の事あり。

祈福始安然
祈福始安然の事、祈福始安然の事あり。祈福始安然の事あり。

桂華春將到
桂華春將到の事、桂華春將到の事あり。桂華春將到の事あり。

雲天好進程
雲天好進程の事、雲天好進程の事あり。雲天好進程の事あり。

貴人相遇處
貴人相遇處の事、貴人相遇處の事あり。貴人相遇處の事あり。

暗月再分明
暗月再分明の事、暗月再分明の事あり。暗月再分明の事あり。

第四十三言



月桂將相滿

追鹿吹山溪

貴人乘遠箭

好事始相佳

盤中黑白子

下者要先機

天龍降甘澤

先出舊根基

有意興高顯

祿馬引前程

得遇雲中箭

芝蘭滿路生

雷發震天昏

佳人獨掩門

交加文書上

無事也遭巡

月桂將相滿
月桂將相滿は、月桂の將相が満ちたこと、

追鹿吹山溪
追鹿吹山溪は、鹿を吹く山溪のこと、

貴人乘遠箭
貴人乘遠箭は、貴人が遠くまで射ること、

好事始相佳
好事始相佳は、好事が始まり相手が佳いこと、

盤中黑白子
盤中黑白子は、盤中の黑白の石のこと、

下者要先機
下者要先機は、下者が先機を要すること、

天龍降甘澤
天龍降甘澤は、天龍が甘霖を降らすこと、

先出舊根基
先出舊根基は、先出し旧根基のこと、

有意興高顯
有意興高顯は、有意興高顯のこと、

祿馬引前程
祿馬引前程は、祿馬が前程を引くこと、

得遇雲中箭
得遇雲中箭は、得遇雲中箭のこと、

芝蘭滿路生
芝蘭滿路生は、芝蘭が路に生えること、

雷發震天昏
雷發震天昏は、雷が發して天が昏ること、

佳人獨掩門
佳人獨掩門は、佳人が獨り門を掩ること、

交加文書上
交加文書上は、交加文書上のこと、

無事也遭巡
無事也遭巡は、無事也遭巡のこと、

第四十五言



第四十六言



竹園抄

第二十吉



更望身前立

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

何期在晚成

のぞきあはるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

若過重山去

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

財祿自相迎

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

見祿隔前溪

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

勞心休更迷

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

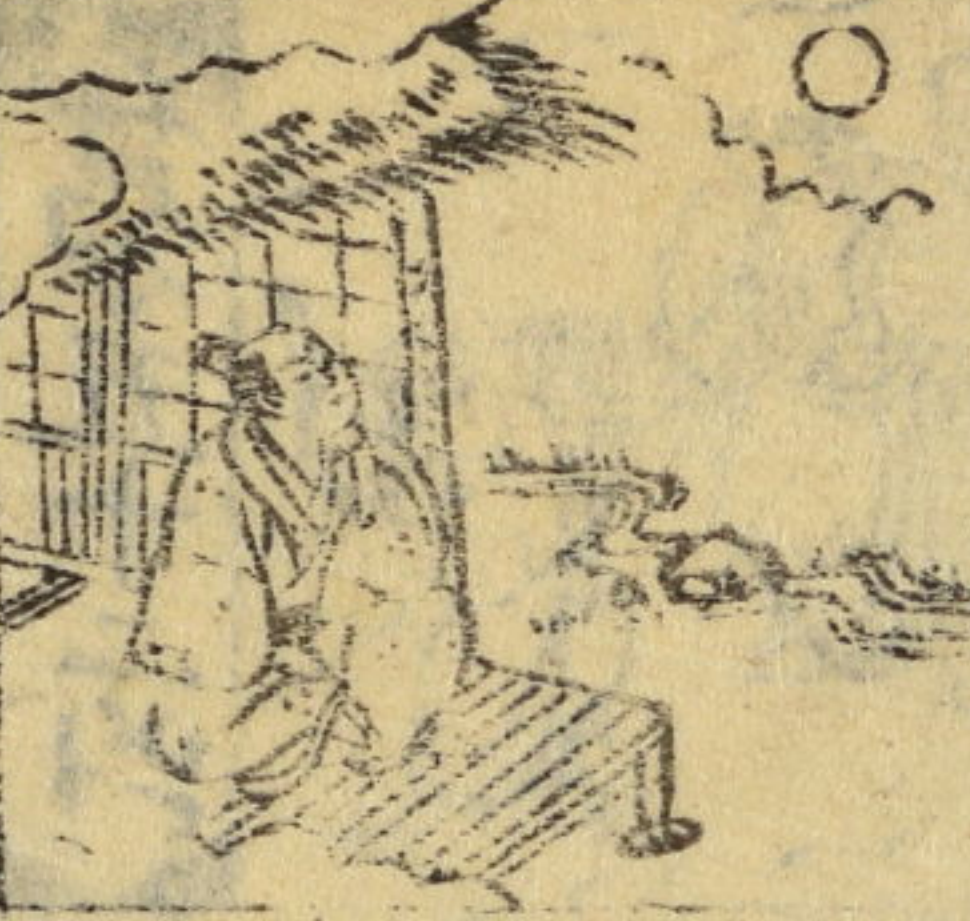
丁朝逢好渡

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

信鳳入雲来

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

第四十九吉



正好中秋月

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

蟾蜍皎潔間

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

晴雲知何處

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

故故兩相攀

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

有達互更變

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

重山利政逢

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

前途相偶合

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

財祿保享通

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

第五十吉



財祿保享通

あがらるるよりともいひのぞきあはるる
まがてあのみまはまはるるなりとあり

第五十言



修進甚功奇

勞生未得時

騰身遊碧漢

方得遇高枝

有德須惹訟

兼有事交加

門裏防人厄

災福莫嘆嗟

久困漸能安

雲書降印權

殘花終結實

時亨祿自遷

身同意不同

月蝕暗長空

輪雖常在手

泉水味相逢



第五十二言



第五十四言



修進甚功奇... 勞生未得時... 騰身遊碧漢... 方得遇高枝... 有德須惹訟... 兼有事交加... 門裏防人厄... 災福莫嘆嗟... 久困漸能安... 雲書降印權... 殘花終結實... 時亨祿自遷... 身同意不同... 月蝕暗長空... 輪雖常在手... 泉水味相逢... 此處為各句的詳細釋義，文字密集且為草書。

第五十善



雲散月重明

天書得誌誠

雖然多阻滯

華發再重榮

生涯喜復憂

未老先白頭

勞心千百度

方隅貴人雷

欲渡長江闊

波深未自傳

前津逢浪靜

重整鉤鰲釣

有徑江海隔

車行峻嶺危

亦防多進退

猶恐小人虧

云散月重明 雲の散るは月を重く照らす事なり

天書得誌誠 天の書を得て志を成す事なり

雖然多阻滯 雖然多し阻滯あり

華發再重榮 華髪再び重く榮ふ事なり

生涯喜復憂 生涯に喜ぶ復し憂ふ事なり

未老先白頭 未だ老らず先づ白頭なる事なり

勞心千百度 勞心千百度なり

方隅貴人雷 方隅に貴人雷あり

欲渡長江闊 欲て長江を渡らん

波深未自傳 波深未だ自傳せず

前津逢浪靜 前津に逢ふ浪靜なり

重整鉤鰲釣 重整して鉤鰲を釣す

有徑江海隔 有る徑江海を隔す

車行峻嶺危 車行峻嶺を危く

亦防多進退 亦防多し進退あり

猶恐小人虧 猶恐小人を虧す

第六十三凶



何故生荆棘

佳人意漸疎

久困重輪下

黄金未出渠

安居且慮危

情深主別離

風飄波浪急

各各自飛

苦病兼防辱

乘危亦未甦

若見一陽後

方可作良圖

水滯少波濤

飛鴻落羽毛

重憂心緒亂

閑事惹風騷

何故生荆棘 何事惹風騷

佳人意漸疎 佳人意漸疎

久困重輪下 久困重輪下

黄金未出渠 黄金未出渠

安居且慮危 安居且慮危

情深主別離 情深主別離

風飄波浪急 風飄波浪急

各各自飛 各各自飛

苦病兼防辱 苦病兼防辱

乘危亦未甦 乘危亦未甦

若見一陽後 若見一陽後

方可作良圖 方可作良圖

水滯少波濤 水滯少波濤

飛鴻落羽毛 飛鴻落羽毛

重憂心緒亂 重憂心緒亂

閑事惹風騷 閑事惹風騷

第六十五未言



第六十六凶



第六十七凶



枯木未生枝

獨步上雲歧

豈知身未穩

獨自惹閑非

異夢生英傑

前來事可疑

芳菲春日暖

寒鴉發殘枝

第六十八吉



明月暗雲浮

花紅一半枯

惹事傷心處

行舟莫遠圖

雷發庭前州

炎火向天飛

一心未起祿

爭奈掩朱扉

第六十九凶



本とありとあるとせむせむせむせむ...
枯木未生枝...
獨步上雲歧...
豈知身未穩...
獨自惹閑非...
異夢生英傑...
前來事可疑...
芳菲春日暖...
寒鴉發殘枝...
明月暗雲浮...
花紅一半枯...
惹事傷心處...
行舟莫遠圖...
雷發庭前州...
炎火向天飛...
一心未起祿...
爭奈掩朱扉...

第七十四



道業未成時

何期雨不互

事煩心緒亂

翻作徘徊思

戸内防重厄

華菓見分枝

嚴霜總過後

老可始相互

第七十三



久晴漸分明

登江綠水澄

芝書從遠降

終得異人成

蛇虎正交羅

牛生二尾多

交歲方成慶

上下不能和

第七十二



道業未成時
此言道業未成之時
如天未雨之時
事煩心緒亂
此言事煩心緒亂
翻作徘徊思
此言翻作徘徊思
戸内防重厄
此言戸内防重厄
華菓見分枝
此言華菓見分枝
嚴霜總過後
此言嚴霜總過後
老可始相互
此言老可始相互

何期雨不互
此言何期雨不互
事煩心緒亂
此言事煩心緒亂
翻作徘徊思
此言翻作徘徊思
戸内防重厄
此言戸内防重厄
華菓見分枝
此言華菓見分枝
嚴霜總過後
此言嚴霜總過後
老可始相互
此言老可始相互

事煩心緒亂
此言事煩心緒亂
翻作徘徊思
此言翻作徘徊思
戸内防重厄
此言戸内防重厄
華菓見分枝
此言華菓見分枝
嚴霜總過後
此言嚴霜總過後
老可始相互
此言老可始相互

翻作徘徊思
此言翻作徘徊思
戸内防重厄
此言戸内防重厄
華菓見分枝
此言華菓見分枝
嚴霜總過後
此言嚴霜總過後
老可始相互
此言老可始相互

戸内防重厄
此言戸内防重厄
華菓見分枝
此言華菓見分枝
嚴霜總過後
此言嚴霜總過後
老可始相互
此言老可始相互

華菓見分枝
此言華菓見分枝
嚴霜總過後
此言嚴霜總過後
老可始相互
此言老可始相互

嚴霜總過後
此言嚴霜總過後
老可始相互
此言老可始相互

老可始相互
此言老可始相互

久晴漸分明
此言久晴漸分明
登江綠水澄
此言登江綠水澄
芝書從遠降
此言芝書從遠降
終得異人成
此言終得異人成
蛇虎正交羅
此言蛇虎正交羅
牛生二尾多
此言牛生二尾多
交歲方成慶
此言交歲方成慶
上下不能和
此言上下不能和

登江綠水澄
此言登江綠水澄
芝書從遠降
此言芝書從遠降
終得異人成
此言終得異人成
蛇虎正交羅
此言蛇虎正交羅
牛生二尾多
此言牛生二尾多
交歲方成慶
此言交歲方成慶
上下不能和
此言上下不能和

芝書從遠降
此言芝書從遠降
終得異人成
此言終得異人成
蛇虎正交羅
此言蛇虎正交羅
牛生二尾多
此言牛生二尾多
交歲方成慶
此言交歲方成慶
上下不能和
此言上下不能和

終得異人成
此言終得異人成
蛇虎正交羅
此言蛇虎正交羅
牛生二尾多
此言牛生二尾多
交歲方成慶
此言交歲方成慶
上下不能和
此言上下不能和

蛇虎正交羅
此言蛇虎正交羅
牛生二尾多
此言牛生二尾多
交歲方成慶
此言交歲方成慶
上下不能和
此言上下不能和

牛生二尾多
此言牛生二尾多
交歲方成慶
此言交歲方成慶
上下不能和
此言上下不能和

交歲方成慶
此言交歲方成慶
上下不能和
此言上下不能和

上下不能和
此言上下不能和

第七十五凶



孤舟欲過岸

浪急渡人空

女人立流水

望月意情濃

富貴天之祐

何須苦用心

前程應顯跡

又用得高臨

累滯未能蘇

求名莫遠圖

登舟波浪急

咫尺隔天衢

但存正公道

何愁理去忠

松柏蒼蒼翠

前山祿馬重

第七十六吉



第七十七凶



第七十八吉



Handwritten commentary in vertical columns, providing detailed explanations for the poems above. The text is written in a cursive style and covers the entire width of the page below the printed text.

第七十九吉



残月未還光

樽前非語傷

戸中有人厄

祈福保青陽

深山多養道

忠正帝王宜

鳳逐鸞飛去

昇高過九天

道合須成合

先憂事更多

所未財寶盛

更變得中和

火發應連天

新愁惹舊愁

欲求千里外

要渡更無船

あけの月のひかりもさかぬあけの
いまはひかりとてさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの

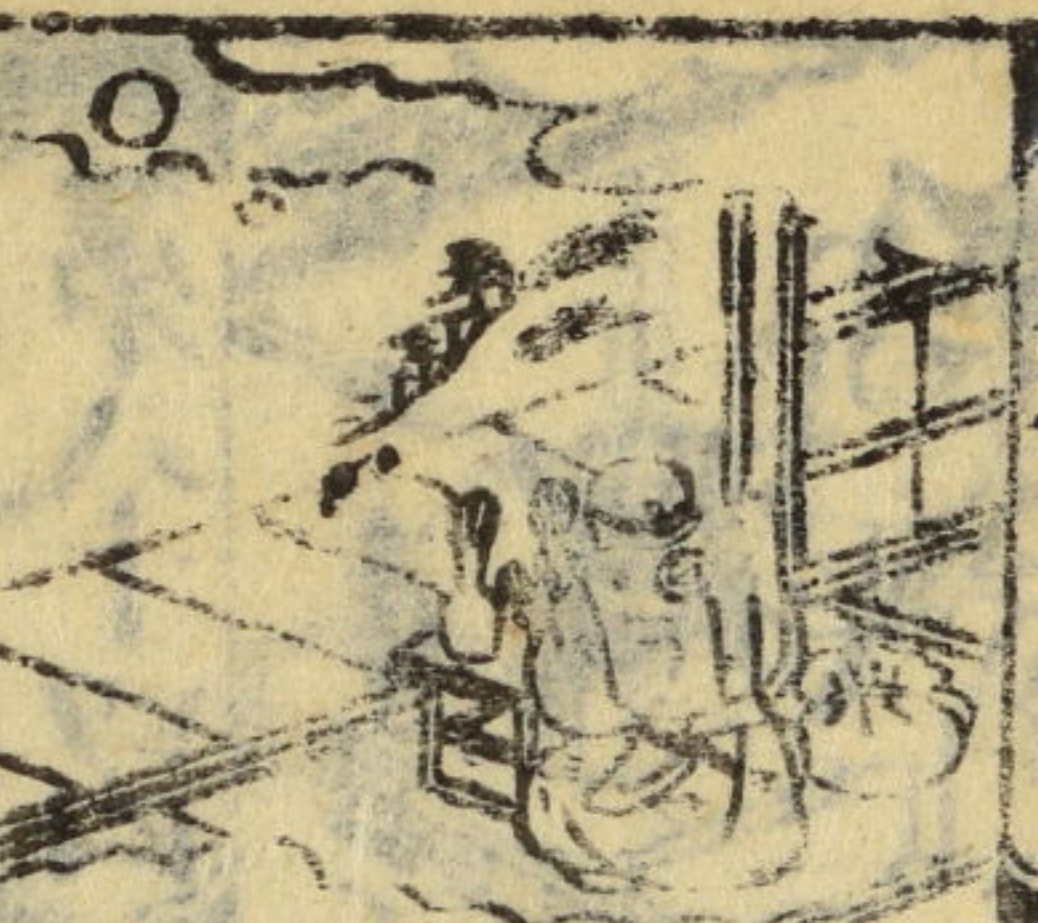
あけの月のひかりもさかぬあけの
いまはひかりとてさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの

あけの月のひかりもさかぬあけの
いまはひかりとてさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの

あけの月のひかりもさかぬあけの
いまはひかりとてさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの

あけの月のひかりもさかぬあけの
いまはひかりとてさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの
さかぬあけのさかぬあけの

第八十小吉



第八十一凶



第八十三凶



舉步出雲端

わりのちのこころうんげんと
のこころにまうひてよふはねるなりと
のこころをうののふとこころなり

高枝未可攀

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

昇頭看新月

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

猶在黑雲間

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

否極方無泰

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

華開值晚秋

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

人情不調脩

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

財寶鬼來偷

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

望川何愁晚

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

求名漸得寧

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

雲梯終有望

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

歸路入蓬瀛

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

華發應陽臺

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

車行進寶財

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

執文朝帝殿

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

走馬听声雷

あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり
あまのこころにより竹をれかみなり

第八十五大吉



第八十六吉



七

七

第九十吉



改變前途去

わづらひたるまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

月桂又逢圓

月のひかりをまた見れば
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

雲中乘祿至

雲の中をまた見れば
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

凡事可互先

凡事の可なりは
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

自幼常為旅

自幼の常なりは
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

逢春駿馬驕

逢春の駿馬は
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

前程互進歩

前程の互進歩は
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

得箭降青霄

得箭の降青霄は
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

第九十三吉



有魚臨旱地

有魚の臨旱地は
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

踊躍入波濤

踊躍の入波濤は
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

隔中須有望

隔中の須有望は
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

先且慮靡勞

先且の慮靡勞は
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

事忌樽前語

事忌の樽前語は
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

人防小輩文

人防の小輩文は
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

幸乞陰公祐

幸乞の陰公祐は
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

方免事敵爰

方免の事敵爰は
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに
いづれかへりてはまゝの道はたゞのまゝに

第九十五吉



第九十五吉



志氣勤修業

禄位未造逢

若聞金雞語

乘船得便風

雞逐鳳同飛

高林整羽儀

掉舟須濟岸

寶貨滿船歸

霧罟重樓屋

佳人水上行

白雲歸去路

不見月波澄

欲理新絲亂

閑愁足是非

只困羅網裡

相見幾人悲

志氣勤修業 志氣のまこと勤修の業をいふは、

禄位未造逢 禄位未だ造らぬに逢ふは、

若聞金雞語 若し金雞の語を聞かば、

乘船得便風 乗船して便風の如く、

雞逐鳳同飛 鶏は鳳とて同様に飛ぶは、

高林整羽儀 高き林に羽を正す儀は、

掉舟須濟岸 舟を動かさば岸に濟すは、

寶貨滿船歸 寶貨は船に満ちて歸るは、

霧罟重樓屋 霧の罟は樓屋に重なるは、

佳人水上行 佳人は水上を行くは、

白雲歸去路 白雲は歸る去る路は、

不見月波澄 月波の澄みたるを見ずは、

欲理新絲亂 欲て新絲を理すが亂るは、

閑愁足是非 閑愁は是非の足るは、

只困羅網裡 只て羅網の裡に困るは、

相見幾人悲 相見れば幾人悲しむは、

第九十六凶



第九十八凶



...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

第九十九大吉



紅日當門照

つうらひのあつたにまはるる日影の照りたるは吉なり

暗月再重圓

くろつきがまたまたまはるるは吉なり

遇珍須得寶

あまのたまをみよふにたまたまあはれは吉なり

頗有稱必過

いさゝかあはれは必ず過ぎぬは吉なり

祿走白雲間

あまのたまをみよふにたまたまあはれは吉なり

携琴過蓬山

あまのたまをみよふにたまたまあはれは吉なり

不遇神仙面

あまのたまをみよふにたまたまあはれは吉なり

空惹意珊瑚

あまのたまをみよふにたまたまあはれは吉なり

元三天師御闡吉凶判断

第一大吉

吉みりてはわくちとせんてとあれは吉なり

第二小吉

吉みりてはわくちとせんてとあれは吉なり

ひけた令にさうりかいとてさうりては吉なり

神

第十三大吉

いみじくも... (Vertical text describing the 13th hexagram, starting with 'いみじくも')

第十四末吉

いみじくも... (Vertical text describing the 14th hexagram, starting with 'いみじくも')

第十五凶

いみじくも... (Vertical text describing the 15th hexagram, starting with 'いみじくも')

第十六吉

いみじくも... (Vertical text describing the 16th hexagram, starting with 'いみじくも')

第十七凶

いみじくも... (Vertical text describing the 17th hexagram, starting with 'いみじくも')

第十八吉

ひみわにわをかきあはれといのりたぐんあをえ
 してはひみわひのあぐいやはせまたもく作てた
 わるひまはらへをけりてきまうらん
 うのぬちあへてくふりてうし
 だしくひのとあひるのなをまをらいつまも

第十九未小吉

ひみわにわかくんさうといのり
 ちのといのりてきまひるあひくべ
 いせうてきまひるあひくべ
 うさへてきまひるあひくべ
 かかひひまはらへをけりてきま
 ろんあへてきまひるあひくべ
 たらさるるのあひるのなをまをらいつまも

第二十吉

ひみわにわかくんさうといのり
 ちのといのりてきまひるあひくべ
 いせうてきまひるあひくべ
 うさへてきまひるあひくべ
 かかひひまはらへをけりてきま
 ろんあへてきまひるあひくべ
 たらさるるのあひるのなをまをらいつまも

第二十一吉

ひみわにわかくんさうといのり
 ちのといのりてきまひるあひくべ
 いせうてきまひるあひくべ
 うさへてきまひるあひくべ
 かかひひまはらへをけりてきま
 ろんあへてきまひるあひくべ
 たらさるるのあひるのなをまをらいつまも

第二十二吉

ひみわにわかくんさうといのり
 ちのといのりてきまひるあひくべ
 いせうてきまひるあひくべ
 うさへてきまひるあひくべ
 かかひひまはらへをけりてきま
 ろんあへてきまひるあひくべ
 たらさるるのあひるのなをまをらいつまも

御書

第二十三吉

いみづくにわさくらとんづくとあんど日すり月あらし
さかんたんとあんど七ヶあまのふるあづむかひいじしうどまうらけ
あつはつは二つもあふくまへー▲ちとびのきりしはせうあふいで
とろあいくうらにでせうせゆたいたよとあつうらうらまや一だぞよ
しつじとまらしは▲のあわさひらうらうらしてまらあふのうらうら
とせど▲あまらへんごうら▲の地あわらまらうけまらあうら物何一あ
いさあふうらあまらる▲だうくわらあらうまなまらあつあふのあふのこびいこ

第二十四凶

いみづくにわさくらとんづくとあんど日すり月あらし
さかんたんとあんど七ヶあまのふるあづむかひいじしうどまうらけ
あつはつは二つもあふくまへー▲ちとびのきりしはせうあふいで
とろあいくうらにでせうせゆたいたよとあつうらうらまや一だぞよ
しつじとまらしは▲のあわさひらうらうらしてまらあふのうらうら
とせど▲あまらへんごうら▲の地あわらまらうけまらあうら物何一あ
いさあふうらあまらる▲だうくわらあらうまなまらあつあふのあふのこびいこ

第二十五吉

いみづくにわさくらとんづくとあんど日すり月あらし
さかんたんとあんど七ヶあまのふるあづむかひいじしうどまうらけ
あつはつは二つもあふくまへー▲ちとびのきりしはせうあふいで
とろあいくうらにでせうせゆたいたよとあつうらうらまや一だぞよ
しつじとまらしは▲のあわさひらうらうらしてまらあふのうらうら
とせど▲あまらへんごうら▲の地あわらまらうけまらあうら物何一あ
いさあふうらあまらる▲だうくわらあらうまなまらあつあふのあふのこびいこ

第二十六吉

いみづくにわさくらとんづくとあんど日すり月あらし
さかんたんとあんど七ヶあまのふるあづむかひいじしうどまうらけ
あつはつは二つもあふくまへー▲ちとびのきりしはせうあふいで
とろあいくうらにでせうせゆたいたよとあつうらうらまや一だぞよ
しつじとまらしは▲のあわさひらうらうらしてまらあふのうらうら
とせど▲あまらへんごうら▲の地あわらまらうけまらあうら物何一あ
いさあふうらあまらる▲だうくわらあらうまなまらあつあふのあふのこびいこ

第二十七吉

いみづくにわさくらとんづくとあんど日すり月あらし
さかんたんとあんど七ヶあまのふるあづむかひいじしうどまうらけ
あつはつは二つもあふくまへー▲ちとびのきりしはせうあふいで
とろあいくうらにでせうせゆたいたよとあつうらうらまや一だぞよ
しつじとまらしは▲のあわさひらうらうらしてまらあふのうらうら
とせど▲あまらへんごうら▲の地あわらまらうけまらあうら物何一あ
いさあふうらあまらる▲だうくわらあらうまなまらあつあふのあふのこびいこ

中用紙

第三十三吉

いみうへにわみんくう... せいせいのあり

第三十四吉

いみうへにわみんくう... せいせいのあり

第三十五吉

いみうへにわみんくう... せいせいのあり

第三十六吉

いみうへにわみんくう... せいせいのあり

第三十七半吉

いみうへにわみんくう... せいせいのあり

中

第五十三吉

いふうにわふをてんうといのり日暮らし月暮ら
たてくろく下を表々まひのあひくへとすもふんあふ
たつあふひのふせすまらふてんあふせりこれ地獄
をせうふろあふへを流るうへまふひびぢらんがく
しとせり今かくるよのせまゆふまふひびぢらんがく
うのわうりおほいこまふすにれたいまふりばり
くあむゆりののあふりけんすくおまふさだうごあり

第五十四凶

いみうにわふをてんうといのり日暮らし月暮ら
たてくろく下を表々まひのあひくへとすもふんあふ
たつあふひのふせすまらふてんあふせりこれ地獄
をせうふろあふへを流るうへまふひびぢらんがく
しとせり今かくるよのせまゆふまふひびぢらんがく
うのわうりおほいこまふすにれたいまふりばり
くあむゆりののあふりけんすくおまふさだうごあり

第五十五吉

いみうにわふをてんうといのり日暮らし月暮ら
たてくろく下を表々まひのあひくへとすもふんあふ
たつあふひのふせすまらふてんあふせりこれ地獄
をせうふろあふへを流るうへまふひびぢらんがく
しとせり今かくるよのせまゆふまふひびぢらんがく
うのわうりおほいこまふすにれたいまふりばり
くあむゆりののあふりけんすくおまふさだうごあり

第五十六未小吉

いみうにわふをてんうといのり日暮らし月暮ら
たてくろく下を表々まひのあひくへとすもふんあふ
たつあふひのふせすまらふてんあふせりこれ地獄
をせうふろあふへを流るうへまふひびぢらんがく
しとせり今かくるよのせまゆふまふひびぢらんがく
うのわうりおほいこまふすにれたいまふりばり
くあむゆりののあふりけんすくおまふさだうごあり

第五十七吉

いみうにわふをてんうといのり日暮らし月暮ら
たてくろく下を表々まひのあひくへとすもふんあふ
たつあふひのふせすまらふてんあふせりこれ地獄
をせうふろあふへを流るうへまふひびぢらんがく
しとせり今かくるよのせまゆふまふひびぢらんがく
うのわうりおほいこまふすにれたいまふりばり
くあむゆりののあふりけんすくおまふさだうごあり

第六十三凶

ひみろくおあふんそんさうといろくす命を長
ていしやまひのあびくすしうきうきうきうきう
あふんそんさうといろくす命を長
ていしやまひのあびくすしうきうきうきう
あふんそんさうといろくす命を長

第六十四凶

ひみろくおあふんそんさうといろくす命を長
ていしやまひのあびくすしうきうきうきう
あふんそんさうといろくす命を長
ていしやまひのあびくすしうきうきうきう
あふんそんさうといろくす命を長

第六十五末吉

ひみろくおあふんそんさうといろくす命を長
ていしやまひのあびくすしうきうきうきう
あふんそんさうといろくす命を長
ていしやまひのあびくすしうきうきうきう
あふんそんさうといろくす命を長

第六十六凶

ひみろくおあふんそんさうといろくす命を長
ていしやまひのあびくすしうきうきうきう
あふんそんさうといろくす命を長
ていしやまひのあびくすしうきうきうきう
あふんそんさうといろくす命を長

第六十七凶

ひみろくおあふんそんさうといろくす命を長
ていしやまひのあびくすしうきうきうきう
あふんそんさうといろくす命を長
ていしやまひのあびくすしうきうきうきう
あふんそんさうといろくす命を長

第六十八凶

ひみろくおあふんそんさうといろくす命を長
ていしやまひのあびくすしうきうきうきう
あふんそんさうといろくす命を長
ていしやまひのあびくすしうきうきうきう
あふんそんさうといろくす命を長

ヤ

目

第六十八吉

いみくにはあふさくごとく日暮り月半ら
とてはよまらひるあふさくはまらあふさくは
人かきいさ方うせむ出べしりねをしちる夜をさく出るまら
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
くりまらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは

第六十九凶

いみくにはあふさくごとく日暮り月半ら
とてはよまらひるあふさくはまらあふさくは
人かきいさ方うせむ出べしりねをしちる夜をさく出るまら
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
くりまらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは

第七十凶

いみくにはあふさくごとく日暮り月半ら
とてはよまらひるあふさくはまらあふさくは
人かきいさ方うせむ出べしりねをしちる夜をさく出るまら
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
くりまらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは

第七十一凶

いみくにはあふさくごとく日暮り月半ら
とてはよまらひるあふさくはまらあふさくは
人かきいさ方うせむ出べしりねをしちる夜をさく出るまら
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
くりまらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは

第七十二吉

いみくにはあふさくごとく日暮り月半ら
とてはよまらひるあふさくはまらあふさくは
人かきいさ方うせむ出べしりねをしちる夜をさく出るまら
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
くりまらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは
まらあふさくはまらあふさくはまらあふさくは

第七十三吉 けみくはあふんせんとうといらの日まら月ゆる

しよまひるあふんせんとういれの日まら月ゆる
るすけんよまらるんあふんせんとういれの日まら月ゆる
のふんあつげあふんせんとういれの日まら月ゆる
けんくひならあふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる

第七十四凶 けみくはあふんせんとうといらの日まら月ゆる

けみくはあふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる

第七十五凶 けみくはあふんせんとうといらの日まら月ゆる

けみくはあふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる

第七十六吉 けみくはあふんせんとうといらの日まら月ゆる

けみくはあふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる

第七十七凶 けみくはあふんせんとうといらの日まら月ゆる

けみくはあふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる
あふんせんとういれの日まら月ゆる

第八十三凶

びみくーにわんをせんとうといろり目すりはまら
とあせうーやまひるやうがわびいんくも人あかめは
うらつてびあかうせ物ださしーまらり人をささげん
のいふやまけよあふーやばりやうさすーあとりむ
たひさうーいさあふさかてわらうさうのぞもあく
下ーいさあふさかてわらうさうのぞもあく
ぐーいさあふさかてわらうさうのぞもあく

第八十四凶

びみくーにわんをせんとうといろり目すりはまら
とあせうーやまひるやうがわびいんくも人あかめは
うらつてびあかうせ物ださしーまらり人をささげん
のいふやまけよあふーやばりやうさすーあとりむ
たひさうーいさあふさかてわらうさうのぞもあく
下ーいさあふさかてわらうさうのぞもあく
ぐーいさあふさかてわらうさうのぞもあく

第八十五大吉

びみくーにわんをせんとうといろり目すりはまら
とあせうーやまひるやうがわびいんくも人あかめは
うらつてびあかうせ物ださしーまらり人をささげん
のいふやまけよあふーやばりやうさすーあとりむ
たひさうーいさあふさかてわらうさうのぞもあく
下ーいさあふさかてわらうさうのぞもあく
ぐーいさあふさかてわらうさうのぞもあく

第八十六大吉

びみくーにわんをせんとうといろり目すりはまら
とあせうーやまひるやうがわびいんくも人あかめは
うらつてびあかうせ物ださしーまらり人をささげん
のいふやまけよあふーやばりやうさすーあとりむ
たひさうーいさあふさかてわらうさうのぞもあく
下ーいさあふさかてわらうさうのぞもあく
ぐーいさあふさかてわらうさうのぞもあく

第八十七大吉

びみくーにわんをせんとうといろり目すりはまら
とあせうーやまひるやうがわびいんくも人あかめは
うらつてびあかうせ物ださしーまらり人をささげん
のいふやまけよあふーやばりやうさすーあとりむ
たひさうーいさあふさかてわらうさうのぞもあく
下ーいさあふさかてわらうさうのぞもあく
ぐーいさあふさかてわらうさうのぞもあく

第八十八凶

ひみろくはわづらをせんぞんとせんぞと
ひるあひくべりめんく十に九をひくこ
うらひるすあーうせすのいせじ
さしー▲はらうー▲ましーらんがよめえむと
りたびさらんを
かあし▲乃をさるゆらあのだしーいさあ
十に九をさるー▲うの
わあしせんぐろろ人十にわわさるす
あらんしー▲たぐいの
りつせふとこすいせのれとんのだぐ
なり

第九十大吉

ひみろくはわづらをせんぞんとせんぞと
ひるあひくべりめんく十に九をひくこ
うらひるすあーうせすのいせじ
さしー▲はらうー▲ましーらんがよめえむと
りたびさらんを
かあし▲乃をさるゆらあのだしーいさあ
十に九をさるー▲うの
わあしせんぐろろ人十にわわさるす
あらんしー▲たぐいの
りつせふとこすいせのれとんのだぐ
なり

第九十一吉

ひみろくはわづらをせんぞんとせんぞと
ひるあひくべりめんく十に九をひくこ
うらひるすあーうせすのいせじ
さしー▲はらうー▲ましーらんがよめえむと
りたびさらんを
かあし▲乃をさるゆらあのだしーいさあ
十に九をさるー▲うの
わあしせんぐろろ人十にわわさるす
あらんしー▲たぐいの
りつせふとこすいせのれとんのだぐ
なり

第九十二吉

ひみろくはわづらをせんぞんとせんぞと
ひるあひくべりめんく十に九をひくこ
うらひるすあーうせすのいせじ
さしー▲はらうー▲ましーらんがよめえむと
りたびさらんを
かあし▲乃をさるゆらあのだしーいさあ
十に九をさるー▲うの
わあしせんぐろろ人十にわわさるす
あらんしー▲たぐいの
りつせふとこすいせのれとんのだぐ
なり

第九十二吉

いみうにわふてんうちんめとまりそんあんと
とちんてりーまひるめふかきせしちんひるす十めんじまら
人さるんかふそころうまうせすのくろりてたづひせし
かくらうさうほじひあたらちちりりししんぐちちりり
たひてんかうのせしす十めんかへいんお十めんさうり
うのちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりり
とちんてりーとちんてりーとちんてりーとちんてりー

第九十四半吉

いみうにわふてんうちんめとまりそんあんと
とちんてりーまひるめふかきせしちんひるす十めんじまら
人さるんかふそころうまうせすのくろりてたづひせし
かくらうさうほじひあたらちちりりししんぐちちりり
たひてんかうのせしす十めんかへいんお十めんさうり
うのちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりり
とちんてりーとちんてりーとちんてりーとちんてりー

第九十五吉

いみうにわふてんうちんめとまりそんあんと
とちんてりーまひるめふかきせしちんひるす十めんじまら
人さるんかふそころうまうせすのくろりてたづひせし
かくらうさうほじひあたらちちりりししんぐちちりり
たひてんかうのせしす十めんかへいんお十めんさうり
うのちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりり
とちんてりーとちんてりーとちんてりーとちんてりー

第九十六吉

いみうにわふてんうちんめとまりそんあんと
とちんてりーまひるめふかきせしちんひるす十めんじまら
人さるんかふそころうまうせすのくろりてたづひせし
かくらうさうほじひあたらちちりりししんぐちちりり
たひてんかうのせしす十めんかへいんお十めんさうり
うのちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりり
とちんてりーとちんてりーとちんてりーとちんてりー

第九十七凶

いみうにわふてんうちんめとまりそんあんと
とちんてりーまひるめふかきせしちんひるす十めんじまら
人さるんかふそころうまうせすのくろりてたづひせし
かくらうさうほじひあたらちちりりししんぐちちりり
たひてんかうのせしす十めんかへいんお十めんさうり
うのちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりり
とちんてりーとちんてりーとちんてりーとちんてりー

第九十八凶

いみうにわふてんうちんめとまりそんあんと
とちんてりーまひるめふかきせしちんひるす十めんじまら
人さるんかふそころうまうせすのくろりてたづひせし
かくらうさうほじひあたらちちりりししんぐちちりり
たひてんかうのせしす十めんかへいんお十めんさうり
うのちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりり
とちんてりーとちんてりーとちんてりーとちんてりー

うせりの知りにくくあらうてたつて...
九十九の知りにくくあらうてたつて...
九十九の知りにくくあらうてたつて...

第九十九大書

いみぐにわあてん...
いみぐにわあてん...
いみぐにわあてん...

第一百山

いみぐにわあてん...
いみぐにわあてん...
いみぐにわあてん...

正徳三癸巳歳七月閏板也

世御闔鈔舊板不少矣今逐一校考之
省繁且加小補而令板行之者也

寶曆二壬申歳

筆者 柴田隨萬



江都

畫工 西村重長



四月再板也

彫刻

霽鶴見喜加七



板元 江府下谷池之端

和泉屋仁兵衛



